

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513720		
法人名	株式会社 達匠会		
事業所名	グループホーム匠和(ユニット I)		
所在地	北海道亀田郡七飯町本町6丁目7番33号		
自己評価作成日	令和3年3月	評価結果市町村受理日	令和3年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanitsru&JijyosyoCd=0191513720-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七飯町の中心部に位置しながらも自然豊かな環境の中で、入居者様とともに家庭菜園を営み土とふれあい四季を感じながらゆっくりとした時間の中で生活を送って頂けるよう取り組んでおります。当事業所の理念は「私達がさせて頂きます 人生のお手伝い」職員・家族・地域の連携により入居者様一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと目指しております。当事業所の入居者様は、昔、農家を営んでいた、農家の手伝いをしていたりという生活歴の方が多く、これもまた当事業所の理念に沿い、入居者様一人一人の生活歴を生かし活き活きとした表情を引き出すよう、日々、意識しながら入居者様との関わりを大切にしております。また、家庭菜園で収穫した野菜や付近で採れた山菜を食べて頂き、食の部分からも四季を感じて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は七飯町中心部の山側に位置し、国有林に隣接した、緑豊かで静かな環境の中にあります。今年度は書面会議でしたが、運営推進会議が有効に機能しており、事業所が抱える問題への対応や地域との連携強化に役立っています。職員は理念を理解し、利用者一人ひとりを尊重し、主体性を損なわないように支援を行っています。法人代表も職員と共に支援の現場に入り、職員の抱える問題と向き合うと共に、職員からの意見を尊重し、運営の改善に努めています。利用者の介護度が比較的高めであり、利用者から直接意向や要望を聞くことが難しいなかで、職員は利用者の発する何気ない一言に注意を払い、希望や意向を把握し、情報を共有することで、事業所全体で利用者の望みを叶えようとする取り組みを行っています。利用者ごとに作成する支援計画は、具体的な行動レベルまで落とし込まれており、職員が支援しやすく、また、モニタリングを行いやすいように工夫しています。協力医療機関の往診時の血液検査結果を、利用者が受診する他の医療機関に提供することで、利用者の身体への負担を軽減する工夫をしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『「私達がさせていただきます 人生のお手伝い」職員・家族・地域の連携により入居者一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと』の理念を全職員が常に意識するよう心がけている。事業所内に掲示し、朝の申し送り時には全員で唱和している。	事業所設立時からの理念を継承し、利用者の持つ力を活かし、できなくなった部分を支援しています。介護計画作成時にも理念を確認し、地域の一人として生活できるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年1月から続く新型コロナウイルスの感染予防を考慮し、施設として地域の方々との交流を極力控えるようにしている。毎年恒例の秋まつりや地域の方々を招いた行事も中止し、ご家族様の面会も制限・禁止の措置を設けている。来年度ワクチンの接種が開始された後は、行事の再開を検討している。	歴史ある事業所として地域との交流を活発に行っていました。コロナ禍に於いても、近隣のカフェで利用者の作品展示を計画するなど、事業所を知ってもらい、利用者が地域の一人と感じられる取り組みを継続しています。事業所からの発信や町内の介護保険事業所との連携を保っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや、地域の認知症高齢者を抱えるご家族様や独居高齢者からの相談が多く寄せられ、その都度、早急かつ丁寧に対応できる体制ができており必要に応じて訪問したり、ご家族様、ご本人様の相談に親身に対応していると好評を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議委員をお招きした会議は実施していない。しかし、施設での運営推進会議議事録は委員の皆様にお届けし、会議内容を周知している。	行政、町内会、家族、交番、消防、近隣の他事業所など、出席者は多様です。今年度は6回、書面会議を行い、議事録は家族に送付しています。利用者の日常の支援から非常時の連携までを見据えた議題をとりあげ、寄せられた意見を運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町との交流については、新型コロナウイルス対策を通じ、頻繁ではないものの、連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組んでいる。その他にも、運営推進会議議事録をお届けする際に、施設の現状等の報告を行っている。	町の福祉課が窓口となっており、事業所の運営で不明な点があれば直接窓口に出向いています。例年は行方不明者捜索や医療関係者との会議、中学校の職業体験の受け入れなど、多様な協力を行っていますが、今年度は感染症予防のため中断しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホーム設立以来、研修会の年間計画を立て「身体拘束禁止」に関する項目の研修を必ず実行している。また「身体拘束廃止委員会」設立し、年に最低でも4回以上開催し全職員に周知徹底し、必要事項と事業所内に掲示している。	身体拘束について指針を定めると共に、会議や研修会の場でグレーゾーンへの対応を事例を交えて検討し、職員間で対応の統一を図っています。身体拘束廃止委員会を組織し、具体的な禁止行為の確認や、ケアにおける職員のストレスの影響などについても学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での3密を防止し、人の集まる会議の回数を減らす目的から、月1回開催される幹部会議に「身体拘束廃止委員会」を集約。少人数で開催し、後日スタッフ会議にて職員に周知し、必要事項を事業所内に掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修会の「権利擁護に関する制度」を取り上げて職員に周知徹底している。また、1名の入居者様が後見人制度を申請中であったが、昨年後見人様が確定した。これからも日々勉強し、権利の擁護に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務を利用案内時の説明文章及び契約書をわかりやすく示し、かつご家族様等に説明同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が見送られ、委員の方々やご家族様から意見をいただく機会が減少した。しかし、ご家族様への連絡や、窓口でのガラス越しに面会する機会を設け、都度ご家族様から意見を頂戴し、出来る限り運営に反映させるように努めている。毎月の機関紙の他、入居者様のお写真を個別に撮影し、お届けしている。	今年度は家族と面会できる機会が減少しましたが、家族への情報提供の充実を図っています。事業所や利用者本人の状況を伝えるために、ホームページの開設や、動画を撮影しそのDVDを家族に送付するなど、家族が運営に対して意見を述べやすい環境を整えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や幹部会議、必要に応じ全体会議を開催し職員に自由に発言してもらい、運営に生かしている。また、職員の採用、運営方法、入居者様の受け入れ、入居継続の可否についてもその都度職員の意見を聞いている。	組織がフラットで、法人代表が支援の現場に入っており、職員は気軽に経営層に意見を伝えることができます。職員から、食事の後片付け時の職員配置について意見があり、運営に反映した例があります。また、新規職員の採用面接に職員が同席することもあり、現場の意見を採用にも取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、不明な点、疑問なことがあれば納得できるまで説明するよう努力している。改善点があれば積極的かつ前向きな検討、改善するなど働きやすい職場環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の年間研修計画を作成、実施している。その都度の研修会には職員が学習してきたものを発表して頂き、相互の意見交換、情報交換している。また外部研修への参加を促し、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	一昨年までは外部研修、会議、催しにはできる限り参加していたが、今年度はコロナ禍による交流の制限があり、七飯町の他事業所との交流も減少した。運営推進会議は資料を委員の皆様にお届けし、施設の状況等をお知らせしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、ご本人様の現状、生活課題、生活歴等を出来る限り細かく分析、把握し、困っていること、不安なことに耳を傾ける努力を日々行っている。またホームの概要をお話し、見学を通して安心の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、親身になって相談を受けるよう心がけている。また、見学時には、体験的にご家族様、ご本人様が他人居者様の日常生活をご覧いただける環境を整えており、信頼できる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にいたるまでの医療、介護、社会資源の利用状況の把握及びご本人様、ご家族様との面談により、ご本人様が何ができ、何ができないかを明確化するにより、必要としている支援を見極めるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本人の主体性を基本にすることが、その人自身の症状や生活の質の改善につながることを事業所理念を通して実践している。入居者様自身が主役になる場面(例えば、家庭菜園を行っているが、教えてもらうことが多い)を作り出している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、面会が制限される中、少しでもご家族様に様子を伝えるため、毎月発行している機関紙は、入居者様別で作成し、提供している。また、クリスマス会の様子を撮影し、DVDにてご家族様へ送付。入居者様の様子を出来る限り多くご家族様へ報告できるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所と一緒にいたり、生活歴やご家族様からの情報を参考に、当時の写真や物品を見ながら会話したり、馴染みの人を招待したりと、関係が途切れないように努めている。昨年1月から外出は極力避け、施設周辺の散歩程度にとどめている。	今年度は友人など馴染みの人との交流ができていない状況となっていますが、入居時に持参したアルバムなどで話題を提供し、利用者がなじみの関係を忘れないように支援しています。家族が遠方の場合、積極的に情報提供を行い、関係の希薄化を防止しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め当事者や他の入居者様に不安や支障を生じさせないようにしている。更に、レクや毎月の外出・調理レク等を通じて入居者様同士の交流を図り良好な関係作りを心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様に、機関紙や各種イベントの案内や招待状を送った上で関係性を大切にしている。また、ご家族様の方からの相談があればその都度相談に乗ったり、支援に努めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のペースを尊重するため、職員は、職員の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者様が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。日々の会話やご家族様からの情報を参考にしている。	意思疎通の難しい利用者が多く、職員は利用者の発した何気ない一言を大切に受け止め、事業所全体で共有し、実現に向けて支援を行っています。本人の意向の把握が難しい場合は、家族に問い合わせ、生活歴などを確認し、利用者本位となるように会議で対応を検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、ご本人様にとっての大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めて行く態度ではなく、入居者様一人一人が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にそれを促す取り組みを日常的に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や入居者様、全職員の気づきや意見を取り入れ介護計画を作成しており、各自が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。モニタリングの方法を見直し記入方法を改善、数値を多用することによって客観的、効率的にできるようにしたい。	職員のモニタリングに基づき、新しい計画を作成しています。計画は利用者の希望を踏まえたニーズが明確化されており、職員が統一した支援ができるように具体的に記されています。計画は短期目標に合わせて見直すほか、状況に応じて適時改定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者様一人一人の特徴や変化を具体的に記録している。また、記録時に文字の色を変え工夫し取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診付き添い、送迎等、ご家族様、ご本人様の要望には、出来るだけ応えるよう、柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度までの地域との交流については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、極力控えている。しかし、施設中庭にある畑の苗植えの際には、ボランティアの方々にご協力いただき、夏～秋にかけて野菜をすることが可能となった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの馴染みのかかりつけ医受診にはご家族様の協力を得て支援している。又、事業所主治医とかかりつけ医との連携が密になるよう情報の提供を出来るだけ細かく、正確に行えるよう心がけている。	利用者は希望する病院を受診することができます。受診にはできるだけ職員が同行し、利用者の状況を担当医に伝えていきます。2つの医療機関から毎月のべ3回の往診があり、その際に行われる血液検査の結果を他の診療科にも伝えるなど、利用者の身体の負担の軽減を図っています。また、職員が利用者の薬を把握しており、服薬について疑問がある場合は医療機関への問い合わせを行うなど、医療機関と適切な連携を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の引き継ぎ時等での介護職、看護職との綿密な打ち合わせや、身体の異常の発見、バイタルサインの確認等、報告対応を相談している。医療情報、受診の際の医師の指示などの分析、チェックを共同で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が必ず同伴し、医療機関に情報提供し、相談するように努めている。また入院中でもできるかぎり面会し、ご本人様、ご家族様に安心して頂けるように努めている。更に、日常的にかかりつけ医、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、ご本人様・ご家族様・主治医・関係機関とカンファレンスを行い、当事業所でできる事をきちんと説明し、納得して頂けるような体制作りをしている。	重度化の指針を定め、事業所として看取り支援を行う方針です。利用者や家族が看取りを希望した場合は、家族、主治医、職員、訪問看護事業所等と方針や情報を共有し、チームとして支援に当たる予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え意識を高めるように努めている。緊急搬送時、医療機関との連携がスムーズに行くように、入居者様一人ひとりのサマリー・フェースブック等をその都度更新し、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に最低二回、地元の消防署の協力を極力仰ぎ、避難訓練、火災訓練を実施している。運営推進会議については開催を控えているが、相談し災害対策の強化と協力体制構築に努めている。また避難所の確認、他施設との災害時の連携についても協議を行っている。発電機2台を施設裏に設置しており、災害時用の給水のための井戸も確保している。	年2回の火災訓練を行っています。今年度は自主訓練とし、昼と夜の想定で、当日出勤の職員のみで実施しました。地域の避難所の情報や福祉避難所について行政に確認しています。食料の備蓄は1週間程度あり、発電機も備えています。また、感染症の発生に備えた防護用品の備蓄も行っていきます。	訓練にはすべての職員の参加が望まれます。また、日頃から職員に対し、緊急事態の際の対応について確認を行い、対応に不明瞭な点や認識に誤りのあった場合には、適時修正し、万一の事態に備えることが望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に入居者様一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけや対応は行っていません。(入居者一人一人の尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法等)	利用者にとって理解できる言葉や質問方法で、生活場面での希望を聞き、利用者が選択できるようにしています。利用者に対する一律の接遇ではなく、一人ひとりが心地よく感じる接し方や言葉掛けになるようにしています。職員に対して一方的な研修を行うのではなく、職員がテーマについて自身がどう感じるかを文章にまとめ、それをもとに法人代表と支援について対話を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者様一人一人が自分で決めたり、希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取り組みを日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	事業所の理念に沿い、入居者一人一人の個性を尊重し、その人のペース、希望を何よりも優先するように全職員が意識し、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好み、らしさを尊重し、職員と一緒に考え支援できる体制を作っている。衣類、化粧品品の購入は、ご家族様も含めて支援しており、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と距離をとって食事をとり、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。また入居者様に楽しんで頂けるよう、前庭でのBBQや、お誕生日会ではご本人様ご希望のメニューを取入れ、月一回は調理レクにて入居者様と共に食事を作っている。	献立は法人代表が栄養士のアドバイスを受けながら作成しています。利用者の希望をこまめに把握し、献立に反映しています。調理担当職員が調理を担当し、利用者の慣れ親しんだ料理のレシピを基に料理を作ったり、調理レクなどを通じ、利用者が生活の主人公として活躍する場を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間の献立表を作成・実施しており、医師、看護師・職員と相談しながら入居者様の栄養バランスに留意している。また、食事摂取量、水分量の毎日累計をとり、適切な量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力を引き出しながら、口腔内の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(例:歯磨き、入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)必要に応じて、協力歯科医の往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	できるだけトイレでの排泄が継続できるよう、トイレ誘導の時間や本人のサインを見逃さずに支援しています。入居時にオムツ使用の利用者が、状況が改善し、布下着になった事例もあります。また、自然な排便ができるよう、牛乳や運動などを取り入れています。本人の自信を失わせないように、適切な衛生用品の選定と支援方法を職員が検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な排便習慣をつけ食物繊維を多く含む食品や水分を多く取るように促したり、メニューに取り入れるように努力している。また、排便コントロールを医師・看護師を相談し、助言、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者様一人一人の希望にや状況に合わせて設定する。体調やタイミングを見ながら、くつろいだ入浴が出来るように支援している。(時間帯、長さ、回数等を考慮している。)	入浴は週2回以上行っています。地元のフルーツや庭のミントを湯船に浮かべたり、足湯なども行っています。利用者の力量や希望に応じ、見守りでの入浴や同性介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者様には、一日の生活リズム作りを通じた安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知しており、入居者様一人一人が医師の指示どおりに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で入居者様一人一人が楽しみ事や出番を見いだせるよう場面作り等の支援を行っている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節には、天気の良い日は出来る限り前庭等への外気浴、散歩を行っている。昨年は9月までは控えていたが、紅葉の季節にはドライブにて入居者様に紅葉を鑑賞していただいている。ご本人様が満足し、喜び、生き生きと過ごせるように職員が一丸となって取り組んでいる。	事業所は自然に恵まれた場所にあり、人の密集もないため、職員が十分に配慮しながら毎日のように近所の散歩や畑へ出かけています。また、閉塞感を感じないよう、ドライブにも頻繁に出かけています。今年度は感染症防止のため行えませんでした。墓参りなどの個別の外出支援も行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や希望に応じて、家族との相談のもと、職員と一緒に買い物に付き添う等の個別対応を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をご本人様に書いて頂くよう支援している。また、ご本人様から希望があればその都度、ご家族様へのお手紙作成をする体制はできている。またご家族様、知り合いからのお手紙を読むことが困難な方には読み聞かせている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、ご家族様が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいように玄関まわりや建物の周辺が家庭的な雰囲気となるよう配慮している。また、共有区間の食堂・廊下には入居者様、職員が共同で作成した手作りの作品を飾って楽しんで貰ったり居心地の良い環境になるように工夫している。	居間などの共用空間は広く、利用者が一緒に作った壁飾りなどを掲示しています。利用者同士の関係を見て、食卓の座席を決めています。廊下の突き当りにソファを配置することで、一人で寛ぐこともできます。室温はパネルヒーターを25度くらいに設定し、加湿器も設置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になったり、気のあった入居者様同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。全居室に温・湿度計を設置している。	利用者の居室の入り口には名字を平仮名で表示し、自分の部屋とわかるようにしています。持ち込んだ家具の配置は身体状況に合わせてついたりしないよう、又地震などの際に落下しないよう安全に配慮しています。利用者へのメッセージを書いた色紙や写真などを飾っています。暖房機の設備を更新し、室温も利用者に合わせて調整しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体機能の低下に合わせ安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるようにするための設備、工夫がある。また、場所がわからなくなることによる入居者様の混乱を防ぐための工夫をこらしている。			